

講習会アンケート結果 総評

今回の「ぐんま野球フェスタ（GBF）2026 指導者講習会」は、計 **671名** から回答を得る大規模な調査となりました。参加者の多くが現場の指導者や保護者であり、子供たちの健康を守りながら野球を楽しむ環境づくりに対して、非常に高い関心と意欲を持っていることが浮き彫りとなりました。

1. 非常に高い満足度と継続意欲

本講習会の全体的な満足度は極めて高く、**約 88%**（非常に満足：56%、満足：32.2%）がポジティブな評価を下しています。

- **平均評価点:** 10 点満点中 **7.7 点**
- **今後の参加意欲:** 90.3%が「今後も開催されたら参加したい」と回答しており、本活動の継続的なニーズが確認されました。

2. 指導現場の現状：野球肘と練習環境

現場の指導者が直面している課題も明確になっています。

- **野球肘の現状:** 「現在チームにいる」または「過去にいた」と回答した割合を合わせると、約半数（47.5%）が身近な選手に野球肘の障害を確認しています。
- **検診の普及:** 一方で、エコー検診を「毎年行っている」チームは 44.1%に留まり、約 27%は「行っていない」のが現状です。
- **練習時間:** 休日の拘束時間は「5～6 時間」が 45.5%と最も多く、「8 時間以上」も 16.2%存在します。

3. ルール改正・マナーへの意識

肘の障害予防や競技継続のための新ルール案については、現場の受容性が高まっています。

- **球数制限:** 70 球ルールについて、64.8%が「ちょうどよい」と回答しています。
- **推奨される施策:** 複数回答では「リエントリー制（39.8%）」や「1 時間 30 分の時間制限（34.7%）」、「6 イニング制（31.6%）」などが、肘の障害対策や楽しさ向上のために有効だと支持されています。
- **スポーツマンシップ:** 改善すべき点として「怒声・罵声の禁止」が 55.6%と最も多く挙げられ、指導スタイルのアップデートが急務とされています。

4. 今後の要望

- **今後のニーズ:** 指導者がさらに知りたいテーマとして、「練習メニューの効率化（64.1%）」がトップとなり、次いで「障害予防の具体策（42.9%）」、「子どものメンタルケア（38.2%）」が続きました。

【結論】 本講習会は、障害予防から心の指導まで、現場が求めている情報を的確に提供できたと言えます。今後は、特に「効率的な練習メニュー」の具体的な提示や、検診を受

けたくても方法がわからない層（4.6%）への具体的な受診ルートのご案内などが、さらなる価値向上につながるでしょう。